

メッセージアウトライン ローマ 8 : 18~25 「私たちの望み」

[18]「今の時のいろいろの苦しみは、将来私たちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足りないものと私は考えます」

信仰者の現在において受ける苦しみは、将来に与えられようとする栄光に比べれば取るに足りない。→Ⅱコリント4:17

[19]「被造物も、切実な思いで神の子どもたちの現れを待ち望んでいるのです」

パウロは神の救いを、ただ人間だけのこととしてとらえずに、神の造られたすべての被造物を視野に入れて語っていく。「神の子どもたち」とはイエス・キリストによって救われて神の子どもとされた者、すなわち信仰者たちのこと。その現れとは、キリストとともに神の子どもたちが現れるキリスト再臨の時のこと。→ユダ14、Ⅰテサロニケ4:14

[20-21]「それは、被造物が虚無に服したのが自分の意志ではなく、服従させた方によるのであって、望みがあるからです。被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由の中に入れられます」

「虚無」とはギリシャ語原文では「本来の効力を失って実を結ばない状態」のこと。美しいと見える自然が実は呪われている。→創世記3:17~18 これは人間の罪に対する神のさばきの結果であった。しかし、神によってそのような状態にされたのなら、また再び神によって回復させられる望みがある。その時こそ、キリストが再臨される時なのである。その時には、被造物自体も神の子どもたちの栄光の自由の中に入れられる。

[22-23]「私たちは、被造物全体が今に至るまで、ともにうめきともに産みの苦しみをしていることを知っています。そればかりでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、心の中でうめきながら、子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだの贖われることを待ち望んでいます」

この世界は人間の罪のゆえに呪われてしまった世界であり、被造物全体がうめいている。「御霊の初穂をいただいている私たち」とはキリストを信じて、御霊をいただき、全被造物の中の初穂とされている者、すなわち信仰者たちのこと。信仰者たちは再臨のキリストと会いまみえる時、古び、衰え、罪を犯しやすい肉のからだに代えて新しいからだを与えられる。→Ⅱコリント5:1~5 信仰者たちはそれを待ち望んでいるのである。

[24-25]「私たちは、この望みによって救われているのです。目に見える望みは、望みではありません。だれでも目で見ていることを、どうしてさらに望むでしょう。もしまだ見ていないものを望んでいるのなら、私たちは、忍耐をもって熱心に待ちます」

キリストによって罪贖われ、救われている者は、将来完全に罪から解放され、名実ともに神の子としての実質を備えた者となることを望むことができる。私たちは目に見えるもの、すでに持っているものに対しては、さらにそれを望むということはない。名実ともに神の子とされる信仰者の救いの完成はなお将来のことであり、信仰者たちは忍耐しつつ、この地上での戦いをつづけ、その時を熱心に待ち望むのである。